

石垣島は山地の起伏に富んでおり、島のほぼ中央北よりに県下第一の高峰於茂登岳（525.8m）がそびえているが、その於茂登連山から東北部に野底岳（282.4m）、金武岳（201.3m）、平久保半島の久宇良岳（254.8m）、安良岳（366m）などが連なり、於茂登岳から西には、ぶざま岳（321.6m）屋良半島からの屋良部岳（216.5m）とつながる。島の南半分に広がる平野部にはバンナ岳（230.4m）を主とする小連山、カーラ岳（136m）の残丘群、宮良丘陵などがそれぞれ独立的な地形をつくっており、宮良川、名蔵川、轟川、通路川など大小の川がこれらの山地、丘陵を縫って海に注ぐ。

地質は古生層、火成岩、琉球石灰岩、洪積層及び沖積層などからなり、地勢や地形によって相互に入り組み、きわめて複雑な構造をなしている。また島の周辺は堡礁によって囲まれている関係から、遠浅になっており、白砂のつづく天然の美をつくっている。

小浜島：竹富町に属し、西表島の東2.5kmにある島。面積8.14km²。島の人口はしだいに減少の一途をたどっている。現在、世帯数180、人口429。

石垣市：沖縄県最南域にある八重山諸島の中心都市。石垣島と尖閣諸島を含む。1947年（昭和22）に市制を施行。はじめ石垣島の西半分を市域としたが、64年、東の大浜町を合併、編入して1島1市の〈新石垣市〉を形成。市域は広大で、県下10下のうち第1位を占める。八重山諸島における政治、経済、交通、教育、文化の中枢を占め、人口40,777人、世帯数11,120。面積226.99km²、このうち無人島の尖閣諸島は合わせて5.46km²。石垣市全人口の約80%が四箇村あるいは四箇とよばれる市街地の中心部に住む。ここには石垣市役所をはじめとして、国、県の行政庁出先機関ならびに銀行、会社、商店、学校、図書館、映画館などが集中している。

竹富町：日本最南端の地方自治体。同島の波照間島は有人島として列島最南端の島である。また同町の西表島の面積は沖縄本島について第二。行政区域は竹富、黒島、新城、小浜、鳩間、波照間、西表の各字（島）からなっており、沖縄で最も広い。過疎化のため人口は3,300人台を低迷している。世帯数は1,271、人口3,283。

昭和45年、50年、55年の国勢調査報告から産業別15才以上の就業者数（資料1）をみると第1次産業就業者数は構成比率の上では全県、石垣市、竹富町共減少傾向にある。しかしながら、第1次産業就業者数の実数は昭和50年と55年の報告から本土復帰時点（昭和47年）の離農、離漁村から立直って安定化、Uターン現象がみられ、竹富町の農業、林業を除いては増加傾向にある。特に石垣市、竹富町での漁業、水産養殖業は復帰前の実数を上まわっている。

2.) 調査地域の水産業の概略

漁業経営体階層別経営体数（資料2）は昭和56年1月1日現在では、県全体で10トン～1,000トンまでの経営体は約3%に過ぎず、また漁船無動力船から3トン未満の経営体（定置網、海面養殖を除く）は68%を占めている。中南部に10トン以上の沖合、遠洋漁業経営体が他地域より多くみられる他は、北部、宮古、八重山も同傾向である。

経営体階層別経営体数の推移（資料3）は石垣市では55年1月より1トン未満から3トン未満への大型化がはかられているのと55年11月より定置網が出現しているのが目立つが、零細沿岸依存型漁業の傾向には変化はみられない。竹富町では経営体は全て10トン未満である。

経営組織別経営体数（資料4）は、昭和48年、53年、57年の統計年報では、個人経営が県98%、石垣市99%、竹富町100%である。主とする漁業種類別経営体数（資料5）は、石垣市では1本釣、刺網、追い込み網、採貝、かつお1本釣等の漁業が主におこなわれている。しかしながら分

類区分の出来ない広範囲な漁労行為を行なう「その他の漁業」の経営体数も多い。竹富町では採草が多く、次いで刺網、一本釣漁業がおこなわれている。その他の漁業が多いことと追い込み網漁業の経営体がなくなったこと、そして採貝漁業の増加が認められる。県全体の漁業経営体数は、昭和48年11月に4,340経営体あり、その後増減をつづけ、昭和53年1月に3,931まで減少し、53年11月には4,401に回復し、次の年には4,553と増加したが4,400台を維持しつつわずかな減少がみられる。石垣市は昭和48年11月の321から昭和50年1月には452と急増したが、その後はわずかな減少し、昭和57年1月現在では344経営体である。竹富町は昭和50年1月の182経営体を最高に増減をくり返し、昭和57年では145である。石垣市、竹富町共昭和55年の調査から大巾な減少はなく安定していると言える。採貝漁業経営体数(資料6)は県全体では昭和51年1月に84人にまで増加したが、その後減少し、57年には72となった。石垣市でも同様な傾向を示し、51年に30経営体あったものが57年で9となった。しかしながら竹富町では57年には4と逆に増加している。

出漁日数別経営体数(資料7)は石垣市では150~199日、次いで200~249日の出漁日が多い。竹富町では採草漁業が多いためか、30~89日出漁が最も多く、90~149日がつづく。専業、兼業別個人経営体数(資料8)は石垣市では53年11月から専業率が上昇し、47.7%となり、その後は50%台にある。兼業の中で漁業主の経営体数は専業への移行年の53年11月から減少している。兼業経営体の漁業主と漁業従の割合は53年11月以降は約1/2である。竹富町の専業率は10~20%と低くまた兼業経営体の漁業主、漁業従の割合も漁業従の方が4~9倍と多くなっている。これは出漁日数別経営体数で述べたことと同様に季節的な採草漁業従事と市場への距離が遠く、自家消費的な半農半漁の生活形態をとらざるを得ないためであろうと思われる。

海面漁業の漁獲量及び生産額は表1に示した。県の漁獲量は53年11月の87,876トンピークに減少を続け、57年には約1/2の45,706トンにまで減少している。これは近海及び遠洋のかつお漁の不振によるところが大きい。石垣市では昭和50年1月の9,074トンを最高に斬減し、57年には3,623トン、約2/5となっている。しかしながら、漁価の高騰に支えられ、県では53年11月と57年1月とでは13%程度の減収にとどまっている。石垣市では県漁獲量の7~8%の供給をしており、生産額では10~13%を占め増加の傾向にあり、石垣市の県漁業に占める割合は高いといえる。

表1. 海面漁業の漁獲量及び生産額

調査月日(現在)	漁獲量(トン)			生産額(千円)			漁獲量%			生産額%		
	①県	②八重山	③石垣市	①県	②八重山	③石垣市	②/①	③/②	③/①	②/①	③/②	③/①
昭和48年1月1日	53,899	7,859	6,051	10,454,335	820,836	621,495	14.6	77.0	11.2	7.9	75.7	5.9
48年11月1日	70,678	9,399	8,286	15,234,316	1,478,014	1,235,985	13.3	88.2	11.7	9.7	83.6	8.1
50年1月1日	87,777	9,690	9,074	18,581,175	1,213,290	1,066,767	11.0	93.6	10.3	6.5	87.9	5.7
51年1月1日	51,483	4,943	4,345	14,828,701	1,327,340	1,070,197	9.6	87.9	8.4	9.0	80.6	7.2
52年1月1日	70,500	6,260	5,630	17,375,434	2,163,439	1,878,620	8.9	89.9	8.0	12.5	86.8	10.8
53年1月1日	60,774	5,482	4,971	18,438,661	2,300,618	2,007,545	9.0	90.7	8.2	12.5	87.3	10.9
53年11月1日	87,876	6,695	5,383	21,557,048	2,904,857	2,557,062	7.6	80.4	6.1	13.5	88.0	11.9
55年1月1日	68,535	3,746	3,260	18,823,514	2,618,685	2,336,646	5.5	87.0	4.8	13.9	89.2	12.4
56年1月1日	58,967	4,727	4,227	21,314,673	3,005,427	2,760,962	8.0	89.4	7.2	14.1	91.9	13.0
57年1月1日	45,706	4,340	3,623	18,784,858	-	-	9.5	83.5	7.9	-	-	-

(沖縄農林水産統計年報より作成)